

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 次世代エネルギーインフラ実証事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 新産業・エネルギー振興課 エネルギー係

電話番号：058-272-1111 (内 2934)

E-mail：c11353@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,684 千円 (前年度予算額：7,100 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,100	0	0	0	0	0	0	0	7,100
要求額	4,684	0	0	0	0	0	0	0	4,684
決定額	4,684	0	0	0	0	0	0	0	4,684

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

次世代エネルギーインフラとして、太陽光発電や燃料電池、蓄電池などを最適な形で組み合わせる「ベストミックス」モデルの普及を図る。このため、実証モデルを設置・運用し、実証結果を広く公表するとともに、県民に実際にエネルギーインフラを身近に触れてもらうことで、一層の普及啓発を図る。

○都市モデル／アクティブG (JR 岐阜駅隣接の県有施設)

平成23年2月公開。ガスコージェネ、太陽光発電 他

環境省「チャレンジ25実証事業」(R1事業終了、継続実証実験中)

○防災型モデル／道の駅「星のふる里ふじはし」 他6施設 合計7施設

平成25年3月より順次公開。太陽光発電、燃料電池 他

国交省「基盤整備推進支援調査費補助金」(R4事業終了：1施設)

環境省「GND事業」(R6事業終了：3施設、R7事業終了：3施設)

※R3年度事業終了モデル

○公共施設モデル／花フェスタ記念公園

○中山間地モデル／郡上市明宝地内古民家

(2) 事業内容

- ・都市モデル設備の維持管理。（環境省より無償借受）
- ・防災型モデル（7施設）設備の維持管理と実証事業。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・都市モデル、の設備については環境省から無償借受している。実証事業は平成31年度で終了しているが、引き続き実証実験を実施するため設備維持管理業務は借受側（県）が行う。（要環境省報告）
- ・防災型モデルは国の補助金を活用して県が導入したものであり、同設備の維持管理業務は設備の所有者（県）が実施する必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
業務委託料	351	都市モデル(アクティブG)業務委託
	2,233	防災モデル(道の駅7施設)業務委託
修繕料	1,895	インフラ設備修繕料
役務費	150	除草(太陽光発電事業地 県管理箇所)
事務費	55	旅費
合計	4,684	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

次期エネルギービジョンでは、再生可能エネルギー創出量を2030年度に13.88PJとする目標を掲げている。この目標を達成する施策のひとつに、次世代エネルギーインフラ普及があり、各種実証データの公開、普及啓発に取り組むこととしている。

(2) 事業主体及びその妥当性

県が進める次世代エネルギーインフラの普及であり、県が直接実施する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
再生可能エネルギー創出量を 2025 年度に 13.88PJ 以上にする。
※次期エネルギービジョン（令和 3 年度改定）による。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H25)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R7)	
					達成率	
再生可能エネルギー 創出量	2.37PJ (H25)	8.54	9.61	10.68	13.88	61.5%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	・取組内容と成果を記載してください。 太陽光発電や燃料電池、蓄電池などを最適な形で組み合わせる「ベストミックス」モデルとして、エネルギーインフラを運用し、CO ₂ の削減効果が得られた。
令和 3 年度	令和 5 年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年度	令和 6 年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギー創出量を増加することが必要であり、エネルギーインフラ活用が重要視される。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	太陽光発電や燃料電池、蓄電池などを最適な形で組み合わせる「ベストミックス」モデルにより、事業開始前と比較して再生可能エネルギー創出量は増加した。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	検証が終了した事業については、年度ごとに精査し事業継続について検討している。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 国の補助対象期間が経過した事業についての継続方法の検討。 (継続期間や市町村等への譲渡などを検討する必要がある。)</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 環境省のチャレンジ25事業については、所有者の意向を踏まえ撤去、購入の手続きを順次進めている。 道の駅に設置しているインフラについては、耐用年数の短い蓄電池の状況を勘案しつつ運用を進める。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	